

—2023 年度 甲南女子中学校・高等学校 目標設定および学校評価書

1. 2023 年度の学校重点目標・具体的な取り組み

本校教育理念	建学の理念「まことの人間をつくる」を基盤に、知性と品格を備え、人生や社会に対して前向きに取り組む自立した女性を育成する。
2023 年度の重点目標	1. 未来を切り拓く力となる協働・探究型教育の推進
	2. 進路指導の強化
	3. 生徒募集力の強化
	4. 充実した ICT 環境の構築と、インタラクティブな教育活動の展開
	5. 教職協働による組織体制の強化と充実
2023 年度の具体的な取組	1. (1)総合学習を柱とした主体的・対話的で深い学びの実現 (2)新学習指導要領に準拠した教育課程の実践
	2. (1)強固な進路指導システムの構築 (2)入試区分等に応じたサポート体制の強化 (3)甲南女子大学への進学率増加
	3. (1)情報収集の強化と分析に基づく募集戦略の展開 (2)入試広報戦略の強化
	4. (1)学習環境の整備 (2)既存 ICT インフラの更なる活用
	5. (1)生徒満足度向上に向けた組織一体による取り組み (2)安定的な学校運営のための業務体制構築

2. 2023 年度の各分掌・学年・教科の重点目標・具体的方策

	重点目標	具体的方策	自己評価	
			達成状況	今後の方策
学校経営	<p>①中学入学者数を安定的に確保し、財政基盤の健全さを維持する。</p> <p>②大学進学実績の向上を目指した体制と方策の確立を目指す。</p> <p>③教職協働を継続・推進し、教職員の働き方改革に資する。学校全体として、も教員 1 人 1 人が業務内容の見直しを行い、効率的な働き方ができることを目指す。</p> <p>④ICT 機器を用いた教育内容の充実を図る。</p> <p>⑤心身に問題を抱えている生徒、学業に前向きに取り組めない生徒への継続的なサポートを行い、転出する生徒数の減少を図る。</p> <p>⑥新型コロナウイルス感染症対策の緩和を受け、感染のまん延状況を見極め</p>	<p>①インクルーシブ教育の重要性が喧伝される今の時代に女子校で学ぶことの意義を、広報の折にも伝え続ける。</p> <p>②進路指導のスキルに長けた教員の育成を念頭に置いた研修と人事計画。</p> <p>高校新課程実施に伴い、必要とされる観点別評価の観点や評価の手法の向上をはかる。</p> <p>③学校行事・学年行事・日々のルーティンワークの意味と効果を検証する。</p> <p>④教科会による高校新課程の研究分析と、教材の改善・蓄積。</p> <p>⑤各学年担当者・教科担当・養護・カウンセラー・支援員・保護者が連携を密にして、生徒個々の支援計画を元に指導に当たる事ができるよう体制を整える。</p>	<p>①2024 年度入試における目標はほぼ達成。</p> <p>②教員の進路指導力を向上させるために、進路指導部員を強化することを検討。</p> <p>③各部署において、ICT 機器・ソフトを用いた業務省力化、各手順の細かい見直しを進めている。</p> <p>採点補助システムを導入。</p> <p>④各教科で継続して取り組んでいる。</p> <p>⑤支援員の雇用を継続。支援員のサポートにより、保健室登校生が、図書室での勉強を経て教室へ入る場面が増え、2022 年度よりも不適應による転出生を減らすことができた。</p> <p>⑥新型コロナウイルス感</p>	<p>①今後とも少子化傾向は続くことから、本校の教育理念を完遂するため、今後の適正な入学者数目標について検討する。</p> <p>②2024 年度はデータを扱える進路指導部員を増やし、進路データの分析・教員への情報提供等を強化させたい。また、長文の読解力を要する共通テストの研究を継続する必要がある。</p> <p>③採点補助システムに関しては、今後も更に使い勝手のよいシステムのありかたを検討する。</p> <p>④⑤今後も継続的に取り組む。</p> <p>⑥2024 年度は、文化祭・体育大会も通常通り、人数制限すること無く開催</p>

	ながら、可能な限り学校・学年行事を従来通りの形態に戻すと共に、保護者・学校関係者の来校の機会を増やす。		感染症の5類移行後、感染に留意しながら行事における制限を概ね撤廃した。これにより、生徒が明るく活発になったと感じている。	する方向で計画し、来場を希望する保護者・卒業生全員にご来場頂きたい。
入試広報	少子化、共学人気の今、本校の教育理念と教育方針をさらに深め、甲南女子の今をリアルに伝えるため、本校の特徴や魅力を地道に広報していく。	①学校説明会などで在校生の魅力に触れる機会を増やす。生徒によるプレゼン、総合学習の発表など。 ②少人数での見学会であっても在校生の参加機会を増やす。 ③塾訪問の範囲を広げる。 ④HP 新規メディアサイト「Real」のオープン、行事の告知方法などを工夫する。	学校説明会等で生徒の姿を見せ、学校の魅力を伝えることができた。新規メディアサイト「Real」が完成し、校内の活動の様子を積極的に外部に伝えることができた。	個別塾等への訪問を積極的に行い、学校説明会の動員人数を増やす。Webメディアでの広報施策をさらに強化し、公式インスタグラムアカウントの運用を目指す。
教務部	①2024年度高3選択科目の決定。 ②2024年度より始まるカリキュラム変更について中1～高1の具体的中身の検討及び高2・高3のカリキュラム作成。	①カリキュラム委員会で活発な意見を交換し集約を行う。 ②各教科やスタンダードコース・Sアドバンストコースのねらいや進度、深度の差別化を考察し、どう実現していくかを考え、10年、20年先を見据えた本校の姿を模索する。	①概ね達成 ②検討を重ねた結果取りまとめるまでには至らない部分も多く、継続の審議が必要。	カリキュラム委員会・職員会議などを通して引き続き活発な意見交換を行い、コース再編も含めた今後の学校の在り方を考えていきたい。
生徒指導部	①学校生活を送る上での基本的な心得を通して、生徒自身がその意義を深く考え、自らを律する力を養い、社会性を育む。 ②リーダーシップを育む機会を増やす。	①従来の学校生活・行事を再構築し、よりよい環境を生徒が主体的に考え、実践できるような体制に整える。 ②全校生徒がゴミの削減・分別に努め、社会環境に配慮する取り組みを増やし、特に主体的に活動する生徒を増やしていく。	①全校生が一堂に会し活動する機会が増え、多くの生徒が意欲的に取り組み、従来の活気が戻ってきた。 ②教室内のゴミ箱を撤去することで、ゴミに対する問題意識を高めることができた。	学校生活や行事の中で、生徒が主体的に活動し、協働する意義を見い出せる工夫をする。
進路指導部	①基礎期：学習習慣の確立と自己管理能力の育成。 充実期：社会への関心と学びへの深い動機づけ。 発展期：強い志望動機を持たせて進路を実現させる。 ②教員の進路指導スキルを向上。 ③新課程入試に備えて、情報の整理・共有。	①各学年主任、学年進路担当者との連携を密にする。データの分析、保護者への情報共有の迅速化。入試方式の多様化に対応し、生徒の可能性を広げる方策を改善する。 ②進路指導に必要な情報を蓄積し、活用する。 ③ベネッセのハイスクールオンラインを活用してデータ分析にあたり、各予備校、ベネッセ担当者との連携、情報共有。	①基礎期：Classi導入学年(80回生)が、学習時間間の記録と目標を設定。生徒と教員で共有し、改善を促進。 ②「進路指導スキルアップ」で情報の共有。 ③新課程入試について、進路説明会で共有。	教員の働き方改革ときめ細かな学習指導の両立について、Classiやスタディサプリ等の積極的活用が急務。 総合型選抜、学校推薦型選抜を見据えて、高1から高3学年以外の教員が志望理由書等を指導。 夏休みⅡ期補習期間の活用を検討。 難関国公立大学合格数を増やすための具体的方策を模索。 大学受験に必須の英検級の取得は、英語科だけでなく学年全体で後押しをする雰囲気作りが必要。

総務部	<p>①総務部管轄行事の精選。 ②育友会活動の効率化。 ③資料室の整備。</p>	<p>①講堂朝礼や講演会等で、生徒が主体的に運営できる機会を増やす。 ②本部役員と協力し、学年委員の負担が過重にならないよう、効率的な運営方法を検討・実践する。 ③エントランス等を活用し、学園の歴史について生徒が閲覧できる環境を整備していく。</p>	<p>①生徒指導部と連携し、和光会役員が企画・運営する機会を設けることができた。 ②委員会の内容を精選することで、特定の委員の負担が過度にならないようにした。 ③資料室書庫内の整理・陳列内容の見直しをはかった。</p>	<p>①今後も継続的に取り組んでいく。 ②学年委員の引き受けやすい環境整備を検討していく。 ③エントランスの活用ができなかったため、方策を検討する。</p>
人権教育	<p>①人権感覚を持った生徒と教師の支援・育成。 ②アサーションの実施と活動の充実。 ③いじめ防止教育の実施。 ④インクルーシブ教育の推進・支援体制設計への寄与。</p>	<p>①映画鑑賞や作文集の発行につながる活動を実施する。「道徳」を指導する中学担任と連携し、「道徳」授業の活性化に寄与する。 ②学年やスクールカウンセラーと協働し、アサーション活動の充実を図る。 ③いじめ防止教育プログラムや講演会を企画・実施する。 ④保健室・学校カウンセラーを含む教育相談委員会と連携し、生徒を支援するために必要な情報の提供・組織的な支援体制の設計に寄与する。</p>	<p>人権映画鑑賞会を実施し、作文集を発行した。アサーション活動については、スクールカウンセラーと連携した「道徳」授業を行い、各学年でも日々の「道徳」授業のなかで対話的・協働的な活動に重点を置いて取り組むことができた。ただし、いじめ防止教育プログラムや講演会など、新たな試みに挑戦することができず、次年度に向けた課題としている。</p>	<p>保健室・学校カウンセラーを含めた教育相談委員会との連携を深めつつ、各学年が抱えている課題に応じたプログラムを企画および実施する。また、基礎期を中心にアサーション活動を充実させるとともに、人権映画鑑賞会や作文集の発行についても継続し、人権問題に対する意識を高め、校内はもちろん、国内・国外の人権問題に対しても関心を抱く機会を設ける。</p>
環境教育	<p>現在行われている三学園合同の環境学習の実施の周知及び、本校生徒の積極的・自発的参加を目指す。また、貴重な学びの場であることを意識させる。</p>	<p>和光会、IGCE 委員に自分たちの役割と、本プロジェクトの意義を理解させることで、周囲を巻き込んでの活動を促すとともに、環境問題に対する学習意欲を持った参加者を募る。</p>	<p>IGCE 委員がポスターや Google フォームなどを活用して、積極的に生徒募集し、「農業体験学習」を実施できた。また、新たな取り組みとして「微生物発電」をテーマとした1日研修を実施した。自然環境について多面的に考える機会となった。</p>	<p>次年度以降、総合学習と統合する形で環境教育係は発展的解消を図ることになる。</p>
ICT	<p>情報機器を用いた効果的な学習活動を行える環境を整えるとともに、学習者が自身の学びに関するデータを有効的に活用できるような資質を養う。また、蓄積したデータを本校の資産として今後の指針を示す材料としての効果的な活用が教職員もできるようにする。</p>	<p>①情報機器に関してはソフト面、ハード面、運用面に関して、立ち止まることなく、常に実践の場を踏まえたアップデートを継続する。 ②データの蓄積・活用に関しては、学習者・教職員ともに、データの蓄積・分析・活用をできるように、情報に関する過去・現在・未来の視点をメタ的に考えるような機会を積極的に設ける。</p>	<p>環境整備の面では安定した環境づくりが出来ていたが、新たなデータ活用などの面では進展はなく、課題として残った。時流の流れが早い分野であるので、周囲に遅れを取らないような動きが求められると痛感した。</p>	<p>限られたリソースの中で、できることは限られている。本校が教育活動の中で ICT をどのような位置に設定するかのコセンサスが必要である。</p>
総合学習	<p>本校独自の自学創造教育の拡充に向けた、新しい総合学習の実施と教育内容</p>	<p>①「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点のもとと授業展開を図るとともに、</p>	<p>① 中学の総合学習並びに高校の探求と共に、一日研修や宿泊研修を活用</p>	<p>①②ともに外部機関への発表の機会を広げる。また、高2で探求の発展形</p>

	の検証、改善と発展を目指す。	進路を見据えた総合学習の充実を目指す。 ② 新教育課程において、内容の充実、発展を目指し、本校の取り組みを外部へ発信できる枠組みを検討。	し、SDGsを主体とした授業展開を図ることができた。 ② 主体的・対話的学びの発表の機会として、各学年保護者会での成果発表と外部機関への積極的な参加を果たした。	として、HR活動などを活用して進路を見据えた学びの機会を充実させる。
国際教育	①海外姉妹校への2023年度派遣と受け入れ、同時に2024年度の姉妹校との交換留学の準備をすすめる。カナダへの夏期語学研修旅行を実施。 ②国内・校内で実施可能な国際教育活動の実施。	①海外との交流を円滑に再開できるよう、姉妹校と連携を維持し準備を進める。 ②国際教育に関する国内や校内での研修を企画し生徒に発信する。	①セントマーガレット校(オーストラリア)へ2名の派遣と受け入れを実施した。カナダへの研修旅行は18名にて実施でき、コロナ禍以降、初めて海外との交流が再開できた。 ②南洋女子高校(シンガポール)とのオンライン交流やドイツ語講座を開講した。留学生の受け入れでは保護者にも協力していただき、日本文化体験を実施できた。	①現在の姉妹校との関係を維持し、派遣、受け入れ共に継続していくが、協定を打ち切られた姉妹校がある中、新規に関係を築くために情報収集や現地視察を行う。また、夏期研修旅行はカナダへ再訪する。 ②国際教育や外国語習得への興味関心を高めるため、校内イングリッシュキャンプや異文化交流の実現に向けて活動していく。
保健室	継続的な支援を必要とする生徒個々を念頭に、組織的な支援体制を整備する。心身の健康問題を自分事と捉え、改善するための行動選択に繋がるよう保健指導を行う。	①保健室内の自習スペースの活用のあり方を検討。 ②支援委員会を定期的に開催し、管理職・学年団・スクールカウンセラー・支援員・保健室員など関係教職員で連携、支援方針を共有する。 ③身体の臓器のイラストなどを保健室内に掲示することで不調がどの臓器で起こっているのかを理解し、自分の体調について生徒自身の言葉で説明できるよう促す。	①保健室登校の生徒が増えたことにより机を増設し、生徒の座席を指定した。心の安定を図るため保健室での活動に編み物を追加した。 ②週1回のペースで開催し、情報共有すると共に支援方針を確認した。また、スクールカウンセラーのサイボウズアカウントを作ったことで大幅に情報共有の効率が上がった。 ③問診時に、今の自分の体調について言葉で明確に説明できない生徒に対し、5W1Hで問いかけ、患部はどの臓器にあたるのかをイラストを用いて説明し理解を促した。	①保健室で安心して過ごすことにより、自尊心や自信を深め、教室復帰や人間関係の構築など個人の目標を支援する。 ②支援委員会は今後も定期的に開催する。 ③今後も生徒自身が自分の体に興味関心を持ち、理解が深められるよう随時説明を加えながら問診、指導していく
事務室	①学校教育の改善・充実のため、働き方改革を推進する。 ②業務を見直し、業務効率の向上を図るとともに経費削減に取り組む。 ③生徒募集活動並びに教	①就業形態(規則)の見直しを教職協働で実行する。 ②決裁フローの見直しを推進する。 ③教育機器に関するサポート体制を強化する。	①変形労働時間制を導入し、勤務実態に沿った働き方が実現可能となった。 ②各種申請書類の様式と決裁フローを整理し、事務処理の効率化が進ん	教員の働き方改革をより推進すべく勤務管理システムを導入し、勤務実態を正確に把握し、労働時間の適正化を目指す。 教員の事務処理にかかる

	育活動の支援を強化する。		だ。 ③情報サポート部門と学園全体の情報関連を統括している IT・管財課との連携を深め、サポート体制の強化を図った。	負担を軽減するため、処理フローの見直しを図る。
中学 1 年	①生徒の基本的な生活・学習習慣を確立する。 ②「常に前進」の学年目標のもと、生徒の主体的な学びを育成する。	①手帳を活用し、自己管理の手法と計画的な生活習慣を習得させる。 ②学習、HR 活動、学校行事を通じたアサーション活動で自他を尊重する力を養う。	①中学生生活の定着のため、 ②HR 活動や「道徳」の授業において、振り返り作文を課し、自他を尊重する力を養うことができた。	①②中 1 での学びの充実と発展を目指し、「対話」「道徳」の授業を通して、学習活動や行事において、主体的に考え取り組むことができる生徒の育成を図る。特に、「対話」の宿泊研修を中心に SDGs への取り組みを通して問題意識を持つことや課題解決力を育みたい。
中学 2 年	①手帳の活用を軸として基本的な生活習慣を整えるとともに、学力の向上を図る。 ②「対話」「道徳」の授業を通して、自他ともに尊重し、課題の問題解決に主体的に取り組めるよう指導する。	①手帳と「定期考査の記録」と「模擬試験の振り返り」を繋げる。 ②「道徳」の教材を利用することはもちろん、甲南女子学園の歴史、SDGs への取り組みに触れ、多角的な視点で議論ができるよう学習する。	①年度途中から Classi でポートフォリオを作成。 ②SDGs をテーマに校外学習、研修旅行に臨み、その内容を新聞記事にまとめ上げ発表した。神戸新聞「ことまど」アプリを利用した。	①Classi をさらに利用し、学習記録の管理、面談等で利用し、生徒とのコミュニケーションを図る。 ②新聞作成による表現力の向上だけでなく、「学びの技」を利用し、スライドを用いたプレゼンテーション力の育成を図る。
中学 3 年	基礎学力の向上へ向けた取り組みを強化する。充実期の始まりを念頭に置き、高校生に求められる自主的な学習・生活態度の養成を目指す。	総合学習「環境」への取り組みを通じ、課題を発見する力を養成する。教科教育と HR 活動を連携させ、知識を運用して対話に臨む機会を複数設定する。	英単語テストや Weblio 英会話など、生徒の基礎学力を養成し、主体的に学ぶ姿勢を促す機会を設けることができた。	充実期における第二段階の目標として、生徒が教科で得た学びを自己開示へとつなげる活動を強化する。総合探求を活用し、意思疎通能力を向上させる。
高校 1 年	①高校生としての自覚を持ち、進路目標を踏まえ、積極的に学習に取り組み、和光会活動や学校行事、総合学習に主体的に取り組む生徒の育成に努める。 ②ICT 教材の利用を促進し、学習支援、情報共有をさらに進める。	①LHR や個人面談、進路イベント等を利用して進路指導を積極的に行い、生徒には文理選択をするための模索を通して、進路目標を明確にさせる。 ②「自己探求」の授業を通じて、各自の考える力、発表する力を身に付けさせる。 ③授業や「スタディサプリ」(オンライン学習ソフト)、「スタディサポート」(学力・学習生活診断テスト)を通じて、高校生としての学習する力を身に付けさせる。 ④Google Workspace を利用して生徒、保護者、教員の連絡を	①進路イベント(学校説明会、進路ガイダンス、オープンキャンパス参加)を利用してコース選択につながる進路指導につなげることができた。模試分析が課題として残る。 ②「探求」授業をより深められる外部との交流、フィールドワークの機会がもっと欲しかった。 ③利用はできたものの、個別学習への利用が課題である。 ④保護者・生徒への情報共有はより活発に行われるようになった。教員間	①模試分析や進路イベントを軸に LHR や個別面談を通じて、多くの進路情報に触れさせる機会を持つ。 ②これまで培ってきた知識や技法を用いて、その総まとめとして、「論文」の形で提出させることを目指す。 ③「スタディサプリ」を各自の受験に向けた学習の一助として、小テストの代替として等、様々な学習に利用する。 ④教員用 Classroom の利用促進のため、より多く

		密に行う。	の情報共有が課題である、	の情報を共有する。
高校2年	①基礎学力の定着を図り、生徒自身の進学したい大学やその後の進路について、主体的かつ前向きに考えさせる。 ②学年目標のもと、和光会活動や学年行事に主体的に取り組む生徒の育成に努める。	①面談やLHR、授業の機会など学校での活動全般を通して、生徒のモチベーション向上を図り、学力保障と進路情報の提供に努める。加えて、昨年度までに実施した総合学習での成果を、より充実したものとできるような取り組みをサポートする。 ②学校行事や学年行事に積極的に参画する各自に対し、責任と意識を持たせるように働きかけ、遂行することで得られる達成感を自信へとつなげられるよう支援する。	①年間で4～6度、個人面談を各クラス担任が行い、生徒の学習へのモチベーション維持と個人の進路目標の構築を図ることができた。 ②和光会活動や部活動で責任ある立場で活動することで、学校生活を充実したものとすることができよう、サポートできた。	①生徒個人の進路実現に向けて、保護者・進路指導部と綿密に連携を取りながら、担任を中心にサポートする。 ②引退などで役職を離れても、学習だけでなくそれぞれが学校生活を充実したものとできるよう引き続き指導する。
高校3年	①個々の生徒の進路実現に向けて、生徒が主体的に取り組むことができるよう、「チーム学校」として指導・支援を行う。 ②76回生として、甲南女子での生活を丁寧に締めくくり、伝統を承継する。「一隅を照らす」ことができる人間としての姿勢を育み、社会へ送り出した。	①模試の活用、生徒・保護者との面談、進路検討会など、学内外の様々なリソースによる多様な視点から、個々の生徒の進路実現に向けて指導・支援する。生徒の経験や活動を大学入試に活かせるよう、連携して指導する。 ②76回生が協働し行事に取り組み、勉学をはじめ日々の学校生活を大切に過ごすことができるよう指導・支援する。成人としての社会参加に向けて、知識を得、視野を広げる機会を持つ。	①新学力観に基づいて変化する一般入試や、多様な推薦入試の対策に、多くの教師が関わり、協力して対応できた。生徒はよく健闘した。 ②文化祭・体育大会などの学校行事や、球技大会・校外学習などの学年行事、卒業式でのありがとうの会、卒業後の清掃ボランティアなど、生徒が主体となって活動できた。また、進路指導の間、わずかな時間ではあったが、成人として必要な労働や契約についての知識を得るため、動画を視聴する機会を持った。	①大学入試が複雑化する中、受験機会が増える分、メンタルの維持が大きな課題となる。学習・面接指導だけでなく、精神的なサポートにおいても、多くの先生方で生徒に関わることが重要である。 ②コロナ対策や天候の影響で、生徒たちが十分に満足できる条件で行事ができたとは言えなかったが、生徒たちは、様々な思いを抱えながらも、見えないところでも心を込めて精一杯取り組んでいた。行事や様々な活動を通して生徒が成長する機会を作ることは、今後益々大きな意味を持つ。
国語科	新教育課程に則った共通テストに対応するため、適切な教材選定や授業の内容の検討を行う。	報告書、企画書、法令文など、実社会における実用的な文章に慣れ親しみ、読解力をつけていく。また、時間内に適切な解答を作成できるように、素早く論旨を読み取り、適切な解答を作成できる力を養う。	概ね達成。共通テストの内容に対応するため、中1～中3のシラバスの見直しを行った。	担当者が持っている知識や技術、手法を共有し、6年一貫教育を活かした授業を展開する。
社会科	高校新学習指導要領にもとづく3年間の指導計画の確立。	新課程における大学入学共通テストを視野において、必修科目(総合・公共)と探究・選択科目の内容を精選し、3年間の指導計画を確立させる。また、より科目間の連携をはかることで、学力の伸長につな	高2の進捗状況をふまえて、高3の探究・演習の指導計画を検討し、ルーブリックとして完成させた。	共通テストに向けた演習、特に高1の総合科目のあり方を、検討する必要がある。

		げる。		
数学科	<p>①数学的な見方や考え方をするために必要な知識・技能を身につけさせる。</p> <p>②数学的な見方や考え方を、思考・判断・表現する力を身につけさせる。</p> <p>③数学の学習を通して、主体的に学びに向かう力を育て、社会に貢献する人間力を身につけさせる。</p>	<p>①適切な課題や小テストの実施などにより、授業の定着度をあげる。</p> <p>②発問の仕方や授業内容の振り返りを工夫したり、生徒同士の話し合いを取り入れたりするることによって、生徒自らが考察し、結論を導き出す場面をつくる。その際、ICT機器を積極的に取り入れる。</p> <p>③②の過程において、生徒の興味関心を引き出し、協働の中で自分の適性や役割を意識させる。</p>	<p>①定期考査では基本的な内容を問う問題を増やし、必要な知識、技能を身につけさせるように留意した。②や③については高校生を中心に、思考力や表現力を身につけるような習熟度別補習を行った。今後は中学生も思考力、判断力を身に付けることが出来るような自主課題に取り組むように促す。</p>	<p>課題については中学1年生の入学前課題から見直した。また、各学年で定着度を測る小テストを実施した。ICT機器も積極的に取り入れながら、目標を達成するように努めた。また、時代とともに移り変わる生徒の興味関心については、今後も研鑽を重ねていく。</p>
理科	<p>①科学的なものの見方や考え方を身につけさせる。</p> <p>②タブレットなどICTを効果的に活用した学習活動を展開できるように使用方法を見直す。</p> <p>③実験事故防止のための共通理解や対応スキルをさらに向上させる。</p> <p>④大学入試共通テストへの対応を強化する。</p>	<p>①授業内容から日常生活などに関連させた授業展開を行い、調べ学習を含めたレポートなどを作成させる。</p> <p>②教科内で情報交換を積極的に行い、授業に効果的にICT教材を組み込む。</p> <p>MetaMoJiClassRoom・Google Classroom・エスビューア(PDF・画像ファイル等のビューアー)の活用など昨年度までの実績をもとに、ICTを利用した教育を定着させていく。</p> <p>③実験事故防止対策を行いながら、実験実習に取り組み、体験・経験する機会を積極的につくる。また、実験室の整理や危険物の共通理解を教科会議で行う。</p> <p>④大学入試共通テストをはじめ、入試問題の分析を行うと同時に、外部からも積極的に情報収集を行う。</p>	<p>①夏休みの自由研究に加え、授業内容に関連した調べ学習などを行うことができた。</p> <p>②MetaMoJiClassRoom・Google Classroom・エスビューア(PDF・画像ファイル等のビューアー)の活用を積極的に行うことができた。</p> <p>③実験事故防止対策を行いながら実験実習を積極的に行うことができた。実験室の整理もなされていた。危険物の共通理解については文書の回覧を行った。</p> <p>④外部での入試動向のセミナーなどに各科目から参加した。</p>	<p>①他教科と関連した調べ学習などができる方法を検討する。特に新カリキュラムにあたる82回生の理科探求について内容を深めることを検討する。</p> <p>②③④今後も継続的に取り組む。</p> <p>③教科会で文書の内容確認・教員への情報提供等を強化する。</p>
英語科	<p>①英語でインプットした内容・情報を基に思考し発信する力を生徒につけさせる。</p> <p>②英検をはじめとする英語資格の取得率を向上させる。</p> <p>③変化する受験情勢に合わせて使用教材の見直しを図る。</p>	<p>①インプット/アウトプットの両方において必要な語彙力の強化を図る。小テストやMonoxer(語彙暗記補助アプリ)などの活用によって、教員の負担を軽減しつつ学習効果の向上を目指す。また、昨年度と同様、Weblio(オンライン英会話)やスマートレクチャーコレクション(英作文添削システム)などの使用も継続し、発信の場を増やす。</p>	<p>①ほぼ達成</p> <p>Monoxer、Weblio 英会話、スマートレクチャーコレクション等のデジタル教材を活用することができた。</p> <p>②継続</p> <p>各学年の授業では英検についてアナウンスしているが、生徒の意識づけには更なる努力が必要。</p> <p>③継続</p>	<p>①デジタル教材の使用をいかに効率的に生徒の成績に繋げていくかを検討するため、2023年度の経験を次年度に引継ぎをしていく。</p> <p>②英検に関する発信や補習について検討する。</p> <p>③82回生の授業が進んでいく中で、新カリキュラムのために立てている授業計画を最適化すべく</p>

		<p>②授業内外において英検の重要性などについて触れ、生徒の意識づけを図る。</p> <p>③教科会を開き、現在使用中の教材についての共有や、教材間の比較検討を行う。</p>	<p>新カリキュラムの設定に伴い、教材の見直しや授業の在り方について検討が進行中である。</p>	<p>ラッシュアップしていく。</p>
体育科	<p>自らが運動やスポーツに親しみ、運動習慣を身につけることによって、自分の人生を生き抜く体力の向上を図る。</p>	<p>①生徒自らが興味・関心をもつよう段階的に指導を行い、運動・スポーツに親しむ身体的能力の基礎を養う。</p> <p>②怪我・病気から身体を守る体力を強化するとともに、それらを予防、回避する能力を育成する。</p> <p>③タブレットなどICTを効果的に利用した教育を導入する。</p>	<p>①世間でもスポーツの話題が多かったことから、体育・スポーツへの興味、関心を持つ生徒が増えたように思う。</p> <p>②体育授業時の怪我は減少してきたが、今後も体力の強化とあわせて危機管理能力を高めていきたい。</p> <p>③動作確認などを目的に動画撮影をおこなった。</p>	<p>体育・保健の授業だけでなく、保健室とも連携して、怪我の予防、危機察知能力、危機管理能力の向上に努める。</p> <p>各領域で生徒自らが主体的に取り組めるような授業内容の充実を図る。</p>
芸術科	<p>①音楽・美術・書道それぞれの芸術観を養うとともに、表現力の育成を目指す。</p> <p>②相互鑑賞の機会を設ける等、音・美・書で連携した芸術活動を目指す。</p>	<p>①外部機関(対面・オンラインを含む)との連携による教育活動を主に融合芸術の授業などで行うとともに様々な鑑賞の機会を通して芸術的感性の向上を目指す。</p> <p>②学校施設を利用して、芸術鑑賞の機会を設ける。文化祭での芸術科の部屋での展示に加えて、校内での展示などを引き続き行う。可能であれば授業内での相互鑑賞の機会も設ける。</p>	<p>①融合芸術の授業では夏休み期間を利用して様々な芸術鑑賞の課題を設け、表現活動に活かすことができた。</p> <p>②文化祭では芸術科の部屋、各学年の部屋での作品展示を行い、普段の授業作品は適宜校内展示スペースでの展示などを行った。融合芸術の授業内では学年末作品の講堂での発表・鑑賞を行うことができた。</p>	<p>①融合芸術以外の授業においても、外部機関と連携した授業展開や鑑賞の機会を増やすことを検討したい。</p> <p>②文化祭での芸術科の部屋、各学年の部屋での作品展示は引き続き行う。授業作品の展示について、小パネルを使用するなど展示計画をさらに充実させたい。総合芸術での学年末作品の講堂での発表・鑑賞は引き続き行う。</p>
家庭科・情報科	<p>家庭科では、様々な活動を盛り込むことで生徒の対話や協働に繋がる工夫をする。</p> <p>タブレットを利用することで授業に対話的活動を盛り込み、他人と協調する姿勢を身につけることを目指す。</p> <p>定期考査においては、新入試を意識した問題を作問することを心がけ、思考力・判断力の伸張を目指す。</p> <p>情報科では、大学入試共通テストも視野に入れた授業を展開することをめざ</p>	<p>制作や実習の実施方法を徐々にコロナ禍前に戻していくが、引き続き予防対策を徹底させることで、安心して実技に臨む環境をつくる。</p> <p>多くの実習・活動を伴う教科の強みを生かして、対話的・協働的な学びができるような働きかけを行っていく。</p> <p>また GoogleClassroom や MetaMojiClassRoom を活用し、これまで以上に他教科との連携を図ることで、複合的な力を涵養することのできる教科横断的・総合的な教科であることを目指す。</p> <p>情報科においては Web 教材</p>	<p>重点目標を意識しながら、教科担当者が各々工夫し対応することができた。</p> <p>中1食分野、高2家庭基礎で調理実習を1回ずつできた。また選択科目のフードデザインでも、コロナ禍では個人個人の料理を作っていたがグループごとの実習に戻った。実技教科であるため実験実習を充実させ自立・自律につなげたい。</p> <p>情報科に関しては、共通テスト導入を意識し、基礎的な知識・技能と問題</p>	<p>中1の家庭科において、食品群の分け方について保健体育との相違が判明した。生徒の混乱を招かないよう、同じような分野では他教科との共有、連携ができるようにしたい。また実習・実験を増やし、発展的な学びのために内容を充実させる。</p> <p>情報科では、新規の講座「情報演習」で、より共通テストへの対策を具体化していきたい。</p>

	す。また、情報に関する社会的情勢への理解と科学的知見を、主体的に飛躍させることができるような資質・態度の育成を目指す。	の活用や、大学入試予想問題をとり上げるなど、より実践的に取り組んでいく。	解決に関連付けた思考力を身に付けさせた。	
道徳(中学のみ)	昨年度に引き続き、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。	自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考える能力が育つよう「道徳」「総合的な学習の時間」の中で、教員の講義のみならず、生徒同士のディスカッション、ディベートなどを積極的に取り入れる。	教科としての「道徳」の授業を通して、目標は概ね達成できた。生徒同士のディスカッション、ディベートなどは不十分な部分が課題として残った。	教科書を軸とした、緻密な授業計画。その上で、担当者の個性で彩られた授業の実施。